

人間とは何か、想像するちから

京都大学が東京・品川の「京大東京オフィス」で開く連続講座「東京で学ぶ 京大の知」(朝日新聞社後援)のシリーズ5「人間とその進化の隣人たち」が始まった。初回の10月1日は、「天才チンパンジー」として有名なアイや、その子どものアユムの研究で知られる京都大学霊長類研究所長の松沢哲郎教授が「想像するちから 類人猿が教えてくれた人間の心」と題して講演し、「人間とは何か」に迫った。



講演する松沢哲郎教授。「人間とは何か」を哲学からアプローチしてチンパンジーにたどりついた

●チンパンジーの見る世界、人間が見る世界

「ヒト科4属」。松沢教授の講演は、こんな聞き慣れない言葉から始まった。4属とはヒト属、チンパンジー属(チンパンジーとボノボ)、ゴリラ属、オランウータン属のこと。尻尾がない大型の猿という意味で、生物学的に見れば同じ仲間だという。松沢教授の専門は、こうした進化的に近い生きものと比較することで、人間の心の起源を探る比較認知科学という学問だ。

「人間とは何か」を考えるうえで松沢教授は「人間は必ずしも人間のことをよく分かっていない」と強調した。「物理的に存在している外的世界と、私たちが見ている世界は違います」。人間がこの世界をどう見ているかを知るために、人間に近いチンパンジーから見た世界を知る研究「アイ・プロジェクト」を始めた、と続けた。

浮かび上がったのは、チンパンジーのこんな見え方だ。例えば、コンピューター画面上にランダムに現れる1から9までの数字を順番に押す課題をアユムに課したところ、わずか0.06秒見ただけで数字の配置を覚えられることが分かった。また顔の一部を消した似顔絵を渡すと、顔の輪郭をなぞることがはっきりした。これに対し人間の子どもは、目や鼻など消してある部分を書き入れる。

松沢教授は「チンパンジーは目の前にある『そのもの』を見るのにたけているが、人間はその能力を失ってしまった。代わりにじっと対象を見て中身を読み取り、言語的に表現する能力を獲得した」と解釈する。

言語の利点は、一人ひとりの経験を、その場にいなかった仲間同士でも分かち合える点にあるという。目の前にないものを言葉の音から想像させるのが言語とも言える。

松沢教授は、病気で首から下がマヒして寝たきりになりながらも、めげる様子をまったく見せなかったチンパンジーを引き合いに、こうまとめた。「チンパンジーは、今ここという世界に生きている。だから絶望するということがない。人間は想像する力があるから、遠く離れた過去や未来、地球の裏側にも思いをはせ、絶望もするが、希望を持つこともできる」

●二足歩行よりも「仰向け」の姿勢に着目

一口にヒト科4属と言っても、それぞれが独自の進化を始めた時期は異なる。1200万年前にまずオランウータン属がほかの3属と分かれ、ゴリラ属、チンパンジー属と続いた。松沢教授は、それらと比べて見える人間の本質にも触れた。

まずオランウータンとの比較で浮かび上がるのは家族の存在だ。オランウータンは基本的に単独生活で、子どもの時も母親のみと生活するのに対し、ゴリラ、チンパンジー、ボノボ、人間は何らかの家族をつくる。

さらにゴリラと比べると、チンパンジー、ボノボ、人間が家族だけでなく、地域のコミュニティーなどをもち、重層的な社会をつくっていることが分かるという。

それでは、人間以外の類人猿と比べて浮かび上がってくる、人間たるゆえんは何か。松沢教授が着目するのは、直立二足歩行ではなく、仰向けの姿勢だ。

一般に四つの足を持つ動物が二本の足で歩くようになり、手が自由になったと言われるが、松沢教授は「樹上生活に適応した霊長類には手が四つあった。人間は地上に下りて四つの手から二本の足を生み出した」と説く。

一方で仰向けの姿勢を手に入れたことで、人間の赤ん坊は、母親にしがみついているほかの類人猿と違い、母親と離れても姿勢が安定するようになったという。「母親が離れているからこそ、まなざしとほほ笑みでコミュニケーションをとり、声でやりとりをするようになった。また自由な手を使って様々なものを扱い、道具にしていった」と強調した。

●「教えること」と「ほめること」

松沢教授はチンパンジーの親子関係や社会関係に触れる中で、「教えない教育、見習う学習というものが見えてくる」とも説明した。チンパンジーが4、5年かけて石器の使い方を学ぶ過程で親や大人は手本を見せ、子どもは自発的にまねるのを繰り返すという。



アフリカのチンパンジーの親子。実の殻を割る親の様子を見て、子どもが石器の使い方を学ぶ(松沢哲郎教授提供)

聴講者から「教えないことの利点はあるのか」という質問が出ると、「教えるということがまさに人間を人間たらしめている一つのこと」と応じた。教えることのほかに、少しだけ手を添えることや、ほめることも人間特有の行為だという。「チンパンジーは絶対にほめない。ほめることは人間が教育する場合にとっても重要なものだ」と語った。



聴講者でいっぱいになった会場。予定の終了時間を過ぎる白熱した講演に盛んに質問の手が上がった＝東京・品川の京大東京オフィス

(※原稿及びクレジット未記載の写真は朝日新聞社提供)